

野焼き跡のカヤネズミやアカネズミの地表巣 (2017/3/17HP 記事)

久住牧野の博物館

野焼き跡を歩くとカヤネズミやアカネズミの地表巣を発見することができます。

カヤネズミの巣は、ススキやネザサの広い野草地では、50m歩いて1個あるかないか程度ですが、写真1のようなイタリアンライグラスとメヒシバやイヌビエとが交代する草地の中を走る道の法面の焼き跡では、3~5m歩くと1個くらいの確率で発見することができます。



写真1

多くのカヤネズミの地表巣は、ススキの株の中、積もった枯れ葉の中に顔を出した状態で表面だけが焼けているので、手で取り出すことができます (写真2)。

今年は1個だけでしたが、アカネズミの地表巣と判断している巣を見つけました。

写真3はアカネズミの巣があった場所で、巣の下に巣穴が開坑しているのが見えますし、巣の10cm横にも巣穴の入り口がありました。写真4は取り出したアカネズミの巣で、側面に開口部があります。カヤネズミの巣と比べると、枯れた茎葉をあまり細かく裂かないでそのまま丸めてつくっていることがわかります。巣を切り開いてみると違いが明らかです。

*カヤネズミの地表巣に関する情報は[「カヤネズミ」](#)のページでも見るができます。

